青年部通信

事務局　小野 朋宣

待望の田植え開始

青年部では、5月号でも紹介させてもらった播種作業を経て、5月15日に田植えを行った。

青年部の田んぼは約1反5畝あり、去年は12俵と50キロの収穫があった。今年は少しでも上回ろうと13俵を目指し、願いを込めて田植えを行った。

少し水を抜くタイミングが遅かったようだが、毎年オペレーターを務めている福島さんが行った為、大半が上手く植えることが出来た。水が溜まりやすく機械で植えても苗が浮いて来る所や角の部分などには部員らで田んぼに入り手植えをし楽しんでいた。

作業終了後育苗箱の洗浄も行い、毎年これから行う作業に部員らはしっかり覚える様に取組んでいた。

田植え作業と並行し、相馬こども園のグラウンドの草刈りと、野菜畑の耕起も行われた。

相馬こども園での作業は毎年行っており、例年では作業中にはいつ

「思った以上に上手く育った」と述べる部員ら

参加した部員らで草刈りも行った。

積み込まれたマットを田植え機にセットする

田植えを見守る部員ら

ベテランオペレータの背中が頼もしい

初体験ながらもテキパキこなす部員

も部員らを窓から園児らが応援しているのだが、今年はコロナウイルスの関係から声援が聞こえず寂しい様子であった。

こども園では毎年青年部らが収穫したもち米を提供し、餅つきを園児らと一緒に行い、ついた餅を全員で食べて楽しんでいる。今年もこの行事が出来る事を願いながら環境整備作業をしていた。

部員らは「こうして地域の力として毎年声をかけてもらい、必要とされていることが嬉しい。これからも園児らの笑顔を見れる様取り組んでいきたい。」と意気込みを語っていた。

こども達が思い切り走り回れるように整備

今年はここが違う！

例年であれば漏水防止の為に畦に畦波を設置しているのだが、今年は水田溝切り機でシートを張り漏水を防ぐ作業を行った。このシートを張り付けたことによって畦波と同等の効果が得られているのではないかと感じている。

また、畦波を設置する時間よりもこのシートを張り付ける方が早く作業を終えることが出来た。

来年もこの作業行い、更に効率の良いものにしていきたいと、今回見えた課題を話し合っていた。

少し固めの土を力いっぱい起こす

丹精込めて育てた苗の成長が楽しみだ

協力しスムーズに作業をする部員ら

事務局の田植え後記

今回初めて私も田植え機を運転させてもらいました。

いつも見ていて簡単なものだと感じていましたが、実際に操縦してみると真っ直ぐに進むことすら困難でした。

田植え機にベテランのオペレータに同車してもらいアドバイスを沢山もらいましたが、その言葉を聞く余裕もありませんでした。

終了後自分の植えた後を見てみると、グニャっと曲がり隣の列のベテランオペレータの植えた後とは比べ物になりませんでした。

毎年青年部のもち米はシーズンに関係なく買っていただく方が多い事から、楽しみにしている方もいるんだなと感じています。今年も良い出来秋に期待して皆さんにお届けできればと、部員一同思っております。

生産情報

農業振興課　米澤　松太

○りんご作業（6／15～7／15）

管内のりんごの肥大状況は、6月1日現在でふじが12ミリ（管内平均）と昨年よりも5日～6日程度遅い生育となっています。

今後は、高品質・大玉果実生産と来年の花芽を充実させるため適正着果に努めて下さい。

○黒星病に注意しましょう

黒星病の生態は気温が25℃以上になると動きが停滞すると言われていますが、低温で降雨がある場合は胞子が飛散されるため注意が必要です。

黒星病の被害葉・被害果は菌密度低減のため、摘み取り適正に処分して下さい。今後の防除ポイントは、風が強い日の薬剤散布はできる限り避けて下さい。また、散布ムラを少なくするため適正な散布量を守り、降雨がある場合は雨前防除に努めて下さい。

管内のりんご肥大状況（6月1日調査）

	湯　口	紙漉沢	相　馬	平　均	昨　年	平　年
ふ　じ	12.8	11.4	11.9	12.0	17.4	13.0
王　林	16.9	13.4	16.1	15.5	20.2	15.4
つがる	14.8	13.6	13.0	13.8	19.0	14.5

※単位は（㎜）平年値は過去10年間の平均値

○水稲

苗の活着後は、平均気温が高い時は浅水にして分けつを促進し、逆に低い時は深水にして低温障害の発生を防ぎましょう。なお、水の掛け流しはしないようにしてください。

移植後の水管理は、天候の良い日は2～3㎝の浅水にし、低温が続くときは5～6㎝のやや深水にして、分けつを促進して下さい。

また、除草剤の効果を持続させるため、田面がでている時は、処理層を壊さない為に水を静かに足してください。

散布計画りんご病害虫防除暦（第7回目～8回目）

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備　　考
7	500㍑	落花40日後（6月下旬）	チオノック モスピラン カルシウム剤	500倍 4000倍	○ダニの発生に注意し、増加傾向になったら早めにダニ剤を散布する。
8	500㍑	7月上旬	キノンドー顆粒 又はオキシラン イカズチWDG ウララ カルシウム剤	1000倍 500倍 1500倍 4000倍	○ピレスロイド剤を使用した場合、周りに放任園が無い場合次回のモモシンクイガ防除を省略できる。

果実販売動向

販売課　田中 瑠偉

5月の果実動向は、大型連休明け以降、青果物全般にやや落ち着いた荷動きとなっています。

いちごについては、活発な家庭内需要により安定した販売から終盤を迎え、売場は縮小傾向となりました。

スイカについては、連休中の在庫が一掃されたことにより入荷減となり、加えて消費地気温の上昇からカット・ブロック加工売りが拡大されたことにより、引き合いの強い状況となりました。

輸入果実については、キウイ・種なしぶどう・バナナ等が引続き売場の中心となっています。一方、メロンについては、入荷増となりましたが、業務需要が停滞する中、価格の割高感から売場拡大が進まず荷動きの鈍い状況が続き、さくらんぼについても、贈答需要の落ち着きからパック・化粧箱とも引き合いは弱く、厳しい販売となりました。

量販店では、家庭消費の高まりから前年を大幅に上回る売上で推移していましたが、緊急事態宣言が解除されるたびに、落ち着きつつあります。また、百貨店・業務関係は徐々に再開されていますが、発注はまだ回復していない状況です。

その中、りんごについては、2019年産収穫量が40万9，800トン（前年比92％）と、過去10年間で2番目に少ない流通量であることと、「巣ごもり消費」による前進出荷により、さらに在庫が少ないことから高値基調で推移しました。

今後の見通しとしては、スイカが消費地気温上昇とともに売り場は拡大傾向にあり、輸入果実のキウイ・ぶどう・バナナ等とともに売場展開が予想され、メロン・さくらんぼについては引き続き厳しい販売の見込みのなか、りんごについては、冷ケース中心の限定的な販売となり、品質懸念と高値から荷動きは活発でありませんが、競合果実が多くはないことから保合いでの販売推移が見込まれます。

入庫に向けコンテナ洗いを行う

別表　全農あおもりデータ（5／31累計）、在庫数量は県りんご果樹課作成（4月末）

品　種	サンふじ	ふ　じ	王　林	ジョナ	む　つ	その他	合　計
単　　価（円）	3,213	4,544	3,002	3,805	4,634	2,944	3,167
前 年 比（%）	125	107	103	128	100	109	117
在庫数量（ﾄﾝ）	4,153	20,660	3,864	7,304	152	3,494	39,627
前 年 比（%）	60	90	116	72	76	104	85

直売所「林檎の森」

直売所リーダー　津嶋　育美

いつも直売所「林檎の森」をご利用頂きありがとうございます。

さて、直売所には山菜が毎日のように入荷していますが、最近はみずの入荷が多くなっています。

シャキシャキ感とみずみずしさが定評で、地元の方から県外の方まで購入していただいている他、電話での問い合わせも多く、地方発送も頼まれたりする程人気があります。様々な調理方法でお召し上がりください。

また、様々な料理が出来る山菜としてわらびも好評です。味噌汁に入れたりするのも美味しいので、試してみて下さい。

夏本番に突入するとメロンやスイカ、嶽キミも入荷予定ですのでその時にもぜひお立ちよりください。

様々な調理に使える「わらび」

今が旬大人気山の幸「みず」

直売所「林檎の森」の新しいスタッフ紹介

名　　前	古川　華留愛（かるあ）
学　　歴	聖愛高校出身
働いた感想	大変なことが多いが、先輩に優しく教えて頂き、日々成長しています。お客様からの「ありがとう」の声が嬉しく、私の頑張る源となっています。
趣味・特技	歌を聴いたり、歌う事が好きで、スケートボードもしています。
意気込み	笑顔で接客し、多くのお客様に楽しくお買い物してもらえるように頑張ります。